

安全な船舶航行に貢献し我が国の海運業等を支えた
燈台等建設の歩みを物語る近代化産業遺産群



【写真提供】社団法人 燈光会

16-b 観音埼灯台（神奈川県横須賀市）



【写真提供】堺市

16-f 旧堺燈台（大阪府堺市堺区）



16-h 伊王島灯台吏員退息所（長崎県長崎市）

“dark sea” に光を

幕末に日本を訪れた外国人たちは、複雑な海岸線を有する日本の沿岸域を“dark sea”と呼んで恐れ、光力の強い洋式灯台の設置を求めた。明治政府は、この要求に応えるとともに殖産興業に不可欠な海運振興を図るため、莫大な国費を投入して灯台建設を推進した。建設の担い手は、当初の外国人技術者から日本人技術者の手に移っていったが、その中で、我が国の諸条件に適合させるための創意工夫が行われ、建築・土木分野等における西洋技術導入の先駆けとなった。このようにして全国各地に建設された洋式灯台は、日本近海を明るく照らし、海運業の振興を通じて産業発展に大きく寄与した。



【写真提供】社団法人 燈光会

16-c 清水灯台（静岡県静岡市清水区）



16-a 明治丸（東京海洋大学）（東京都江東区）



16-g 旧和田岬灯台（移築）
（兵庫県神戸市須磨区）



【写真提供】博物館明治村
16-d 品川燈台（移築）
（博物館明治村）
（愛知県犬山市）



【写真提供】博物館明治村

16-e 菅島燈台附属官舎（移築）
（博物館明治村）
（愛知県犬山市）

